「東日本大震災・原発被災に学ぶ旅」に参加して

エバーグリーン藤枝　高校３年　望月美里

今回、私はめったに出来ない経験をこの旅でさせてもらいました。まず、津波によって被害を受けた町を視察できたこと、実際にあの恐ろしい経験をした人の話を聞くことができたこと、それについて意見交換ができたこと―――。全部よい経験になりました。その中で特に印象に残っていることは、学生交流で意見を交換したことです。今までで、日常的にあの震災以来、私は友人とこのようなことについてこんなに話をすることがありませんでした。どこか触れてはいけないような気がしたし、何しろ話すにしろ何にも知らない状態に近かったからです。なので、この交流会の時点では、少なくとも旅に参加する前よりは少しはいろいろな事を知ることができたし、それによって、たくさんの話ができ、話せば話すほど、今まで、もう少し周りの人ともっと話しておくべきだったと思いました。

交流会では、地震によって実際恐ろしい経験した福島の学生、まだ地震は経験していないけれど、近い将来に福島と同じような経験をするかもしれないという可能性がある静岡の学生、高知の学生で話しをしました。みんな、高校生、大学生です。年が近く、学生どうし、というのもあってか、とても意見が言いやすく、思っていたことをすべて話せた気がします。それは私だけでなくみんなもそうだったのではないかと思います。そして、学生だからこそ、難しく考えずに、単純な考えや思いを言い合うことができました。

一人一人考えていることは違ったけれども、思っていることは同じで、「もし実際におきたら... こわい、悲しい、寂しい」と、思っていました。実際被害にあったところを見て私もそう思いました。やっぱり、実際見たりすることが、一番思いやすいのだと思いました。

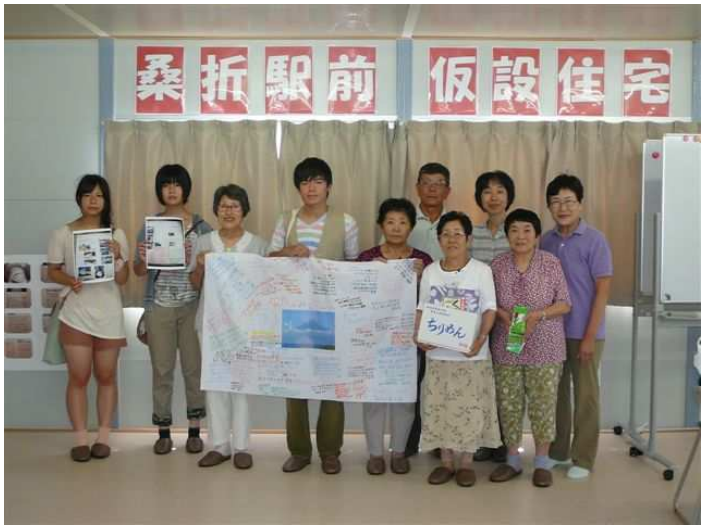
その次に、では実際におきたら何をしたらいいか？と考え、話し合いましたが、そこがとても大変でした。静岡県は福島県と同じく、原発もあるし津波がくる可能性だってあるのに改めて考えてみると実際におきたらどうしていいか何も分かりませんでした。どこまでが原発からの避難区域なのか、家から原発まで何ｋｍなのか？どの方向に逃げればいいのか？津波がおきたときどうしたらいいのか？どこへ逃げればいいのか？？・・・何も対策方法がわか

りませんでした。よく考えれば私はそのようなときのためのハザードマップは一度も見たことがないような気がしました。同じ静岡の先輩は、東日本大震災のあとに一度だけ見たことがあったものの、それ以降見かけることがない、といっていました。今、危険なはずの静岡県がそんなにも意識が低くていいのかと思いました。そう思ったうえに、今までそう思わずに暮らしてきた自分にショックでした。同じように高知の人も静岡ほどではなかったものの、それに対する関心がとても低いということでした。結局どこの人も、あんなに大きな、大変な出来事があったにも関わらず、実際自分の身には起きておらず、軽くしか考えてなかったのではないかということに気がつきました。もちろん、私もです。

しかし、この旅で交流会に参加して、ちゃんとこのことに気がつくことができて、よかったです。もし気がつくことが出来ずに過ごしていたら、と考えると恐ろしいです。なので、学生として、地道でいいからこのことや、今回経験した人の生の声をせっかく聞くことができたので、これらのことを伝えていくことが大切だと思いました。そして、学生だからこそ、大人でないからこそ、自分に入ってくる情報をきちんと把握して、どれを信じるか考えることが大切だということにも改めて気がつくことができました。

以前、私達エバーグリーンでは、ビキニ実験で被爆した静岡県焼津の第五福竜丸に関係する方のお話をうかがってきました。そのときお話をしてくれた杉村さんという方も、同じように、人間、社会についての洞察力をつけ、他人から騙されず、自らにも騙されないことが大切だと言っていました。このような二つのものから同じようなことがあると、改めてこのことの重要さを感じました。

もし今回、私が大人になってこの旅に参加していたら、考えていること、思っていることは全然違ったと思います。この時期だからこそ、このように様々なことを考えることができたのだと思います。今しかできないことです。これから先、この今学生のときに感じた、思ったことを大切にしていきたいです。そしてそれを活かしてこれから先過ごしていけたらいいと思います。



今回、この旅に参加できて、本当に良かったです。

先生方、お世話になりました。そして皆さん、ありがとうございました。